

# H23健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 フォローアップシート

## ◆達成度に関するアドバイス

・施業集約化と路網整備については、概ね計画通りにプロジェクトは進捗していますが、プロジェクトが本格化するのはいずれです。引き続き、円滑なプロジェクトの実践を期待します。

## ◆成果に関するアドバイス

・現地踏査の結果、大きな盛土部分へ路面水の流入が懸念される箇所を確認しました。そのまま放置すれば路体崩壊の危険性が高まりますので、必要に応じた現場の改善を期待します。  
 ・特に、沢部分を利用して作業道に隣接して整備された盛土作業スペースに雨水等が浸入すると、盛土の水分飽和度を高めるため路体崩壊に直結する危険性が一層高まることを危惧します。沢部に土砂を盛土する場合には、小規模で構わないので盛土法尻部分に土留め用の擁壁を施工することが望ましいと思慮します。  
 ・作業道よりも上側に集水区域がほとんど無い線形を選択しているため、降雨被害のリスクが少なくなっていると考えられますが、逆に言えば、表層土壌に水が溜まりにくい状況にあると言えます。現地を観察した結果、A0層がほとんど無い状態にあり、降雨後も表層土壌は乾燥した状態にありましたので、弱度の間伐を繰り返し、まずは土壌回復に務めて下さい。

## ◆効率性に関するアドバイス

・全切り工法は、土羽下への土砂崩落を抑制するメリットがある反面、場外持ち出しとなる土砂が大量に発生するためコストが増嵩します。全切り工法のメリット、デメリットに加え、将来の間伐で期待できる収益などの様々な視点からも検討を重ねた作業道の開設を期待します。

## ◆妥当性に関するアドバイス

・部分的に見ると、土壌回復のために敢えてもう少し木を残す、という選択肢も検討の余地があったと思われるのですが、樹木の蒸散作用により土壌から水分が過剰に逸散してしまうことの影響を考慮すると、全体としては適度な間伐であったと思慮します。

## ◆発展性に関するアドバイス

・急斜面での木材生産時に発生する丸太や端材、根株などを落下させたくない場合は、路網整備の際に設置した落石防止用ネットを木材生産時まで残置することで落下を防止できますので参考にしてください。  
 ・大径木の育成を目指すのであれば、最初から将来木の胸高直径と樹高の生長を念頭に置いた手入れが必要不可欠です。同時に収穫までの間、出来る限りたくさん木材を収穫できるように、将来木以外の手入れも行いながら木を育てていくことに心がけて下さい。  
 ・樹冠長の観察など、森林管理には様々な視点・手法がありますが、現場で的確に林況判読できる知識を身につけるため、関係書籍等を活用した森づくりの研鑽を期待します。  
 ・作業道の開設では、作業道上部の樹冠を多めに空けてやることで路盤の乾燥を促進し堅固な路網を獲得するメリットと、路盤に光が当たることで雑草が生い茂り、維持管理の手間が増えるというデメリットなどが考えられます。こうした様々な要素を比較考慮し、地域に合致した作業道の開設を期待します。

## ◆総括に関するアドバイス

・森づくりはこれで終わりではなく、これから始まります。森は生きており、生きているモノをどう扱うのかということを考え、これからは森づくりに取り組まれることを期待します。

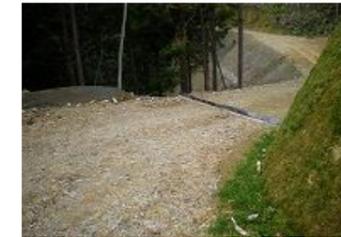
## ◆フォローアップ委員会の開催状況

平成23年12月22日

日時：平成23年11月18日(金)  
 場所：高山市清見町夏厩地内  
 参加委員：三島 喜八郎 岐阜県森林組合連合会 代表理事副会長  
 篠田 成郎 岐阜大学総合情報メディアセンター 教授  
 湯浅 勲 日吉町森林組合理事兼参事  
 対象：たかやま林業・建設業協同組合



プロジェクトの概要説明



止水エースによる排水処理



表層土壌の状況



将来木施業試験地



排水処理方法(横断排水)をフォローアップ



全切り工法による作業道開設



施業方針に関する質疑応答



盛土部が最も低い縦断線形



過伐採との指導を受けた施業地

H23健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会

委員長 三島 喜八郎